

授業評価 2014 (後期) T1L: 工学部メディカルシステム工学科

syll mkjhytex.pl Ver 2.73(2015-03-11) by Yas

2014 年度後期 工学部メディカルシステム工学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1L112001	生体生理工学 II	1 年後期火曜 5 限	川平 洋	T1L 1
T1L117101	感覚情報処理	3 年後期火曜 4 限	鈴木 昌彦	T1L 2
T1L135004	メディカルシステム実験 I	2 年後期火曜 3,4,5 限	中口 俊哉他	T1L 3
T1L139001	医用機器産業概論	3 年後期水曜 5 限	伊藤 公一	T1L 4
T1L157001	材料・設計・加工学	2 年後期木曜 3 限	中村 亮一他	T1L 5
T1L159001	プログラミング設計	2 年後期木曜 4 限	中口 俊哉	T1L 6
T1L160001	プログラミング特講 II	2 年後期水曜 2 限	大沼 一彦	T1L 7
T1L171001	電子計算機	3 年後期月曜 3 限	大西 峻	T1L 8
T1L172001	メディカルシステム実験 III	3 年後期金曜 3,4,5 限	山本 悦治	T1L 9

授業科目名	: 生体生理工学 II
担当教員	: 川平 洋
年次・開講時限	: 1 年後期火曜 5 限
授業コード	: T1L112001
授業アンケート	: 回答者数 38 人 / 受講者数 51 人 (回収率 75%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q1. この講義のシラバスについて、該当するものを全て選択して下さい。(回答 38 件)
シラバスとの内容が一致していない、という指摘があったが、全般に好評であった。

Q12. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか?(回答 37 件)
出欠はとらなかったが、8 割以上の出席があつてよかった。

Q6. Q5 の評価が「はい」でない場合、その原因に該当するもの全て選択して下さい。(回答 8 件)
スクリーンが小さい、という回答が気になった。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

質問が少なかった。次年度は授業方法を変更せざるを得ない。

3. その他のコメントや連絡事項

出席が多く、ありがたかった。

作成(者): 川平 洋

授業科目名	: 感覚情報処理
担当教員	: 鈴木 昌彦
年次・開講時限	: 3 年後期火曜 4 限
授業コード	: T1L117101
授業アンケート	: 回答者数 29 人 / 受講者数 35 人 (回収率 83%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 26 件)

毎回、題材が変わるので、学生に質問して的確な回答を得ることは難しいでしょう。今後は、学生にテーマに関する感想を聞きたいと思います。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

この授業では、工学が医学とどのように関係しているかについて知識をもってもらえばよいです。この授業で深い知識を得ることは難しいでしょうが、将来社会に出たときに「これに関する内容は大学で聞いた覚えがある」というような機会があれば仕事に役立つでしょう。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 鈴木昌彦

授業科目名 : メディカルシステム実験 I
担当教員 : 中口 俊哉, 北 佳保里, 大須賀 敏明, 菅 幹生, 川村 和也
年次・開講時限: 2 年後期火曜 3,4,5 限
授業コード : T1L135004
授業アンケート: 回答者数 21 人 / 受講者数 44 人 (回収率 48%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 19 件)

否定的な意見が 2 割を超えた。

説明の仕方や課題の分量など適切かどうか再検討する。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 21 件)

実験科目にもかかわらず質問していない学生が 3 割近くいた。

質問をすることでコミュニケーション力, ディスカッション力が養われるので
質問しやすい雰囲気作りに努める。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 20 件)

実験のように手を動かす学習を苦手とする学生に対して

満足感, 成長感, 達成感を与えられるような授業を目指す。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

自由記述にて「講義で習っていないことを扱うことが多かったので、もう少し必要な知識を実験前に教えて貰えれば、り理解出来たと思う。」との意見があった。

どうしても講義との整合が取れないケースは避けられないが、そのような場合に実験実施時間中に十分な説明を提供するよう努める。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 中口

授業科目名	: 医用機器産業概論
担当教員	: 伊藤 公一
年次・開講時限	: 3 年後期水曜 5 限
授業コード	: T1L139001
授業アンケート	: 回答者数 39 人 / 受講者数 45 人 (回収率 87%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 34 件)

平均点は昨年度よりも低い 2.35 となっている。この講義に限らないことではあるが、特に本講義では毎回、オムニバス形式で内容が変わるため、もっと積極的に質問をして欲しいと思う。一方で、学生が質問しやすい雰囲気や環境をつくることについては、来年度の課題としたい。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 33 件)

平均点は 4.36 で、80 %以上の学生が満足しているとの回答であり、昨年度に引き続き、本講義の有用性が再確認できた。この理由として、本講義では、医療機器産業界における最新の技術動向を広く理解することを目的とし、主に産業界で活躍中の先輩達に最先端研究や技術などの紹介をお願いしていることが考えられる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

本講義では、シラバスや第 1 回目のオリエンテーションで講義概要の説明はしているが、毎回、オムニバス形式で内容が変わるため、準備学習することは難しいと思われる。しかし、講義が終わってからの復習はぜひお願いしたい。また、毎回、講師の先生も替わるため、質問は遠慮しないでその授業中にして欲しい。

3. その他のコメントや連絡事項

本講義では、医療機器産業界における最新の技術動向を広く理解することを目的とし、主に産業界で活躍中の先輩達に医工学に関連する最先端研究や技術などの紹介をお願いしている。普段ではなかなか聞けない授業であり、メディカルシステム工学科だけでなく、医療機器に少しでも関心のある他学科の学生にもぜひ積極的に受講して頂きたい。また、これまでに、進路を考える際にも大いに参考になったとの意見も少なからず見られ、実際に役に立つ授業でもある。

作成(者): 伊藤公一

授業科目名 : 材料・設計・加工学
担当教員 : 中村 亮一, 川村 和也
年次・開講時限: 2年後期木曜 3 限
授業コード : T1L157001
授業アンケート: 回答者数 28 人 / 受講者数 52 人 (回収率 54%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 26 件)

満足度評価が昨年の平均 3.00 から 4.04 に上昇した。昨年は新設初年度と言うこともあり、内容量・レベル・進捗等の調整が十分でなく学生諸君の満足のいくレベルに到達しない面があったのに対し、今年度は改善が見られたものと思われる。

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進捗は適切でしたか? (回答 26 件)

評価値平均は昨年度 2.59 と極めて低く本講義の最大の問題点であったのに対し、今年度は 4.27 と大幅な改善を果たせた。昨年度指摘された問題に対する改善が果たせたものと考えられる。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 25 件)

評価値平均が 3.56 と 4 に少し届かなかった。限られた時間の中で多くの知識を網羅的に扱う講義のため、講義を行う側も学生側も難しいところであるが、さらに理解度を高めるための努力をしたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

ほぼすべての選択肢で評価値平均が 4 を超えた。昨年は非常に厳しい評価を受け大幅な改善の必要性が認められたが、それに対し一定の対応は果たせたものと考えられる。

昨年度に比較して評点が向上した一方で、アンケート回答数は減少し、また自由記述による意見は昨年度かなり多く寄せられたのに対し今年度は一つも無かった。授業アンケートによる講義改善の恩恵はアンケート協力者が与えることは出来ないのは事実であるし、実際労力のかかるものであるが、是非協力をお願いしたい。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 中村亮一

授業科目名	: プログラミング設計
担当教員	: 中口 俊哉
年次・開講時限	: 2年後期木曜 4 限
授業コード	: T1L159001
授業アンケート	: 回答者数 19 人 / 受講者数 41 人 (回収率 46%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 19 件)

ほぼ全員から肯定的な意見を得た. この指針で改善に努めたい.

Q11. 授業内容の量を考慮すると, 進度は適切でしたか? (回答 19 件)

Q5 の結果に比して, Q11 進度の評価では一部否定的な意見が出た.

早すぎたか・遅すぎたか確定はできないが, 毎回のフィードバックを参考に適切な速度での進行に努めたい.

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 19 件)

42%が質問をしていないと回答した.

コミュニケーション, ディスカッションも教育の一環と考え, 実習中は沢山質問をするよう TA も配置しているので, 質問しやすい雰囲気作りを検討する必要がある.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

世の中の技術進展の早い分野なので常に最新状況を反映した講義に努めたい.

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 中口

授業科目名	: プログラミング特講 II (旧名称「コンピュータグラフィックス」)
担当教員	: 大沼 一彦
年次・開講時限	: 2 年後期水曜 2 限
授業コード	: T1L160001
授業アンケート	: 回答者数 18 人 / 受講者数 39 人 (回収率 46%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 18 件)

授業のために用意した資料は事前に moodle に掲載し, その資料を用いて, 説明したため, 都合により授業を受けられない場合にも, 十分についてこれたと思う。

Q16. 全体を通して, この授業に満足しましたか? (回答 18 件)

この授業はCGを作る技術を身に着けるかどうかであり, 授業で例題を示し, その応用を課題とした。楽しんで, 創造性を発揮していただけたと思われる。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 18 件)

質問は少なかったが, 学生の理解度, 進捗度をみて, 理解できていない場合は直接指導するか, 友人に聞くように指導した。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

最終回に, 課題の作品をみんなで見たことはとても刺激的であったと思います。CGアニメーション作成の楽しさを十分に味わえたと思います。

3. その他のコメントや連絡事項

授業で学んだ, また, 経験した楽しさを, 他の科目にも向けてほしいと思います。次年度も今年の学生と同じように, 自分らしさを出して, 積極的に取り組んでください。

作成(者): 大沼一彦

授業科目名	: 電子計算機
担当教員	: 大西 峻
年次・開講時限	: 3年後期月曜 3限
授業コード	: T1L171001
授業アンケート	: 回答者数 5人 / 受講者数 5人 (回収率 100%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 1件)

実験で扱う機器を変更します.

本年度使用した機器は小型で複雑だったので, 次年度は観察しやすい大きめの機器を導入したい
と思います.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

講義資料では例示が少なかつたにも関わらず, 期末テストでは良く解けていたと思います.

資料については講義中にも指摘がありましたが, 視認性を改善したいと思います.

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 大西 峻

授業科目名 : メディカルシステム実験 III
担当教員 : 山本 悦治
年次・開講時限: 3 年後期金曜 3,4,5 限
授業コード : T1L172001
授業アンケート: 回答者数 43 人 / 受講者数 49 人 (回収率 88%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 21 件)

本科目は、卒業研究の導入を円滑に進めるために今年度から始まった科目である。そのため、教材などは特に指定せず、卒業研究を行うために仮配属された研究室が、個別に準備する形態を採用した。アンケートの結果を見ると、教材の有用性を 76%の学生が肯定しており、各研究室での準備が順調に進んだことを示唆している。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 20 件)

本科目の準備学習・復習にかけた時間が 2 時間以上の学生が 75%おり、多くの学生が熱心に授業に参加したと思われる。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 36 件)

本科目の満足度に対し、77.7%の学生が肯定的な回答をしており、初めての試みではあったが、狙いはほぼ達成できたと考えられる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

本科目は、卒業研究の予備段階としての活動と病院実習とを組み合わせ、メディカルシステム独自の内容とすることを目指した。また、最後にポスター発表も組み込み、質の高い予備的研究活動となるように設計されている。アンケートによると、実験などの実質的な活動には高い満足度を示したが、運用に関しては不満の残る結果となった。すなわち、進行の度合いは研究室ごとばらばらであり、また、最終的に求めている成果も試行錯誤的に決まった点が若干あったために、学生にとっては不安を抱く結果となった。今後、全体のスケジュールを明確にするなど、改善したいと考えている。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 山本 悦治